

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	藤野英明
発言の会議	令和2年11月27日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

### 【件名及び発言の要旨】

- 1 不妊症治療の助成拡充と保険適用化や不育症プロジェクトチームの設置などスピード感ある政府の取組により高まる市民ニーズに対応するために、本市の不妊・不育専門相談センターの体制と取組を充実させる必要性について
  - (1) ニーズの増加に適切に対応できるようにセンターの人員を充実させるべきではないでしょうか。
  - (2) 不妊症・不育症治療に新たに取り組む方々の増加に対応すべく、不妊・不育専門相談センターの存在と取組を広く周知することを筆頭に、ニーズ増加に対応すべく相談電話の回線数や講演会・相談会・交流会の開催回数を増やすなど、同センターの事業の在り方を検討し、拡充していくべきではないでしょうか。
  
- 2 パンデミックが続いていくという前提に立って、人数を減らす代わりに開催回数を増やすなど工夫し、万全な感染対策を取った会場でリアルでの交流会を開催するとともに、時間や場所にとらわれないオンラインでの開催も検討し、コロナ禍で不妊症・不育症治療に臨む当事者の皆さんが安心して交流できる機会を早急に設けるべきではないでしょうか。

- 3 今後さらに増えていく不妊症・不育症治療を希望する方々のニーズに対して、使い勝手の悪かった部分に修正を求めるなど改善をしつつ、妊活LINEサポート事業は来年度以降も継続していくべきではないでしょうか。
  
- 4 出生前検査を受けるか否かで悩む段階から妊婦と家族を支え、胎児に病気や障がいが見つかったときの意思決定を支援し、どのような選択も支えられる体制をつくるために、本市は専門的知見を持つNPOと連携していくべきではないでしょうか。
  
- 5 全国から高い評価を受けた「ベイビーロスアウェアネスウィーク～亡くなった赤ちゃんとお家族に想いを寄せる1週間～」の初日に本市が発信したメッセージが起こした影響について
  - (1) 実施前には、啓発の仕方によってはフラッシュバックが起こり、かえって不調を訴える方々もいらっしゃるのではないかと懸念する答弁をしておりましたが、今回、実際にそのような御意見は本市に寄せられたのでしょうか。
  - (2) 実際にメッセージを発信した結果、全国から寄せられた「いいね」や好意的なコメントの数々などを受けて、本市が発信したメッセージが全国に与えた影響や取組の必要性についてどのように自己評価していらっしゃいますか。
  
- 6 亡くなった赤ちゃんとお家族について、その存在、支援の必要性、社会にある偏見の解消について、本市が日常的にあらゆる啓発の取組を行う必要性について
  - (1) 来年度は、本市のあらゆる公式SNS、ホームページ、広報よこすかを通じて、流産・死産・中絶・新生児死亡などによって亡くなった赤ちゃんとその御家族について、その存在と支援の必要性と社会にある偏見の解消について市民に語りかけるべきではないでしょうか。

- (2) 啓発冊子やチラシを作成して、公共施設や協力していただける民間施設に配架すべきではないでしょうか。
- (3) 赤ちゃんを亡くした天使ママ・天使パパ・天使きょうだいなど御家族の立場の方々をスピーカーとしてお招きし、市民向けに理解と支援と啓発のための講演会を開催すべきではないでしょうか。

**7 本市の姿勢をより強く打ち出すためにも「ベイビーロスアウェアネスウィーク～亡くなった赤ちゃんと御家族に想いを寄せる1週間～」を来年度は公的な啓発週間とし、様々な取組を行う必要性について**

- (1) 来年度はベイビーロスアウェアネスウィークを本市の公的な取組として、積極的に取り組んでいくべきではないでしょうか。
- (2) 来年度もベイビーロスアウェアネスウィークに合わせて、本市の公式SNSアカウントによるメッセージを発信すべきではないでしょうか。
- (3) ベイビーロスアウェアネスウィーク期間中にこの取組への参加表明と社会への啓発のため、来年は、本市も市役所の庁舎などをピンクとブルーにライトアップする取組を行ってはいかがでしょうか。
- (4) ベイビーロスアウェアネスウィークの最終日に世界中で「Wave of Light」が実施されていますが、本市も市役所前公園などでキャンドルをともし取組を行ってはいかがでしょうか。

**8 特定の駅で人身事故が多発している現状を受けて、本市は鉄道事業者に再発防止の早期対応を要請すべきではないでしょうか。**